

現状と課題

1 幼児教育の重要性と非認知能力等の育成

(1) 幼児教育の重要性

子どもの意欲、協調性、課題解決能力等

「忍耐力や自己制御、自尊心といった社会情動的スキルやいわゆる非認知能力といったものを幼児期に身に付けることが、大人になってからの生活に大きな差を生じさせるという研究成果をはじめ、幼児期における語彙数、多様な運動経験などがその後の学力、運動能力に大きな影響を与えるという調査結果などから、幼児教育の重要性への認識が高まっている」

(中教審答申H28.12.21)

(2) 教育要領、教育・保育要領、保育指針で求められる能力の育成

＜育みたい資質・能力＞

参考資料10

①知識及び技能の基礎 ②思考力、判断力、表現力等の基礎 ③学びに向かう力、人間性等
三つの資質・能力は、非認知能力と認知能力の両方が相互に絡み合いながら発揮され、発達していくものであり、そのうち「学びに向かう力」とは感情の育ちであり、非認知能力としての位置付け

＜幼児期の終わりまでに育ってほしい主な姿＞

- ・自立心…「諦めずにやり遂げることで達成感を味わうこと」
- ・協同性…「共通の目的の実現にむけて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げること」
- ・道徳性・規範意識の芽生え…「自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けること」

(3) 非認知能力の育成について(出典:白梅学園大学 無藤 隆 教授 解説)

○目標や意欲、興味・関心をもち、粘り強く、仲間と協調して取り組む力や姿勢が必要

＜取組みの観点＞

- ・面白いと感じたり、関わりたくなる素材を用意
- ・対話を通して、子どもの発想を豊かにし、考えを深める
- ・幼児教育は小学校以降の学習の土台
- ・子どもへの支援と取組み内容の評価は表裏一体のもの

2 富山県幼児教育の現状・課題と取組みの内容

(1) 現状

(教):教育委員会 (総):総合政策局 (厚):厚生部

| 幼稚園 | | | 認定こども園(厚) | | 保育所(厚) | |
|-----|-------|-------|-----------|----|--------|----|
| 国立 | 公立(教) | 私立(総) | 公立 | 私立 | 公立 | 私立 |
| 1 | 19 | 27 | 6 | 94 | 136 | 65 |
| 47 | | | 100 | | 201 | |

計348

○幼児教育施設の種別によって研修担当部局が異なる。
・3歳以上について、共通で同等の教育を行うことが求められている。
(幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領)
・「園内研修」への支援が求められている。

(2) 課題

①訪問研修の充実

- ・幼児教育施設訪問研修の実施
- ・リーダーの育成と研修体制づくり

②指導方法等の検討、研究

- ・幼児教育、小学校教育の円滑な接続を目指す取組み

平成25年1月策定

(富山県教育委員会)「わくわく・きととき」カリキュラム策定から6年が経過⇒現在、改訂委員会において検討中

(国)小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針等の改訂

平成29年3月改訂、
令和2年4月全面実施

平成29年3月改訂、平成30年4月全面実施

③家庭教育と幼児教育の連携の検討

家庭・地域社会・幼稚園等施設の相互連携

⇒幼児への教育が全体として豊かなものになり、幼児の健やかな成長を保障

＜アメリカにおける幼児教育の効果に関する研究例＞

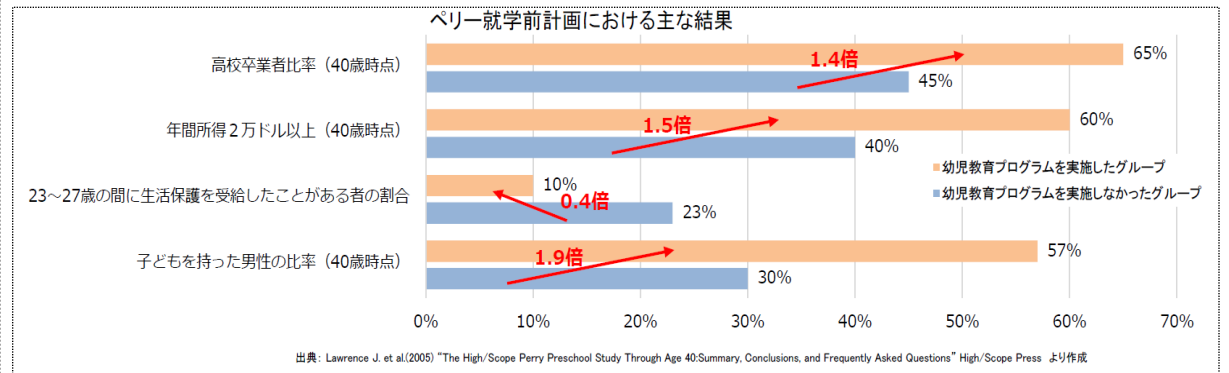
○米国ペリー就学前計画(※海外の事例ではあるが、幼児教育の効果として参考となる研究)

1962～67年に低所得者層のアフリカ系アメリカ人の子ども(3、4歳児)を対象に、幼児教育プログラムを実施(1日2.5時間、2年間)し、その後、追跡調査を実施(3～11歳(毎年)、14歳、15歳、19歳、27歳、40歳時点)。

⇒ 認知能力のみならず、非認知能力が高まることで将来の所得向上や生活保護受給率の低下など長期的効果が発現

○ジェームズ・ヘックマン シカゴ大学教授(ノーベル経済学賞受賞者)の主張

社会的成功には、IQや学力といった認知能力だけでなく、根気強さ、注意深さ、意欲、自信といった非認知能力も不可欠。幼少期の教育により、認知能力だけでなく、非認知能力も向上させることができる。



(内閣官房人生100年時代構想推進室H29.10)

＜日本国内における非認知能力と学力に関する研究例＞

H29年度 全国学力・学習状況調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究

(国立大学法人お茶の水女子大学H30.3.30)

H29年度全国学力・学習状況調査の追加調査として実施した「保護者に対する調査」の結果等を活用し、家庭の状況と学力の関係を分析

①家庭の社会的経済的背景(SES)と学力の関係

- ・SESが高いほど正答率が高く、正答率の学力のばらつきが小さい。SESが低くなるほどばらつきが大きい。

SES(Socio-Economic Status)
家庭の所得、父親学歴、母親学歴

②「非認知スキル」と子供の学力

- ・「非認知スキル」は子供の学力とゆるやかな相関がある。
- ・「非認知スキル」とSESの間には、ほとんど相関が見られない。

↓

◎ SESの高低にかかわらず「非認知スキル」を高めることができれば、学力を一定程度押し上げる可能性がある。

幼児教育の充実について(2)

| 取組みの方向性 | 取組みの概要 | | | | | | |
|--|--|------------------|-----------------|---------------|-----------|-------|---|
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 関係機関等との連携・体制づくり </div> <p>1 幼児教育センターの設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 所管部署 教育委員会小中学校課 ・ 開設日 平成31年4月1日 ・ 職員 5名(センター長小中学校課長兼務) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <tr> <td style="width: 30%;">幼児教育スーパーバイザー(1名)</td> <td>元小学校長、元県立保育専門学院長</td> </tr> <tr> <td>幼児教育アドバイザー (3名)</td> <td>幼稚園長、保育所長経験者等</td> </tr> <tr> <td>指導主事 (1名)</td> <td>小中学校課</td> </tr> </table> <p>2 組織体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の質向上に向けた企画・調整 ・ 他部局との連携 ・ 市町村、幼児教育団体との連携 | 幼児教育スーパーバイザー(1名) | 元小学校長、元県立保育専門学院長 | 幼児教育アドバイザー (3名) | 幼稚園長、保育所長経験者等 | 指導主事 (1名) | 小中学校課 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 取組みの概要 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start;"> <div style="width: 70%;"> <p>① 幼児教育県関係部局連絡会議 (4/10、5/10、5/29、6/17開催) (総合政策局担当者、厚生部担当者等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修内容の検討、訪問研修の企画・調整等 <p>② 幼児教育市町村担当者連絡協議会 (5/10、7/11開催) (市町村幼児教育担当者、総合政策局・厚生部・教育事務所・総教セ担当者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児教育の質の向上に向けた推進体制の在り方の検討等 <p>③ 富山県幼児教育推進体制連絡協議会準備委員会 (10~11月開催予定) ⇒令和2年度 連絡協議会の設置 (幼稚園・保育所等の団体代表、市町村代表者、大学教授等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和元年度から実施している私立幼稚園等に対する訪問研修の実績等を踏まえ ⇒幼児教育の在り方、取組みの方向性等について検討 </div> <div style="width: 25%; text-align: center;"> <pre> graph TD A[教育委員会 小中学校課] --- B[富山県幼児教育センター] A --- C["①県関係部局連絡会 (総合政策局 厚生部)"] B --- D["③富山県幼児教育推進体制 連絡協議会"] D --- E["②市町村担当者 連絡協議会"] </pre> </div> </div> <p>1-① 幼児教育スーパーバイザー・アドバイザーによる訪問研修 (2019年度：24園・所を訪問予定)・・・8月末現在、8回実施</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【訪問研修の成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○訪問研修が園の研修体制の充実につながる。 ○訪問研修により内部、外部から評価され、自信に結びつく。 ○目指す姿、育みたい姿の具体について考える機会となる。 △研修会の時間の確保や研修会参加者の増員 △研修会のもち方や進め方の浸透 </div> <p style="text-align: right;"><県内の幼児教育施設></p> <p>1-② 市町村推進リーダーの育成(2020年度～)⇒3年間で60名養成⇒3年に1度の訪問研修を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市町村推進リーダー育成に係る調整 <ul style="list-style-type: none"> ア 市町村担当者による協議(市町村推進リーダー候補の推薦、訪問研修における協力) イ 幼児教育団体との協議 <p>2-① 幼小の円滑な接続</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 幼小接続カリキュラムの改訂委員会の開催⇒「わくわく・きときと」カリキュラムの改訂 (委員：若山育代富大准教授 外11名) イ 地区別幼小接続研修会の充実(小学校教育関係者、幼児教育関係者) <ul style="list-style-type: none"> ・ 4地区ごとに、幼小の円滑な接続について合同研修 <p>2-② 「幼児教育・小学校教育合同フォーラム」の開催(10月21日 小杉文化ホール ラポール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講演「非認知能力の育成について」：白梅学園大学 無藤 隆教授 ・ パネルディスカッション <ul style="list-style-type: none"> コーディネーター：富山短期大学 宮田 伸朗学長 パネリスト：幼稚園、保育所、小学校等の代表 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○親が参加して、親学びノートの活用やグループ等で話し合うことにより ①子育ての悩みを共有 ②多様な考え方の気づき ○推進リーダーを配置 (79中学校区に各1名以上：県内計100名) </div> <p>2-③ 公民館での自然体験活動、親学び講座等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○親学び講座の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ H28～ 幼稚園、保育所等で実施⇒H30…約3,600人受講 <全体35,000人> ・ R元～ 0歳児～未入園所児保護者まで拡大 県内4カ所の子育て支援センターにて実施 |
| 幼児教育スーパーバイザー(1名) | 元小学校長、元県立保育専門学院長 | | | | | | |
| 幼児教育アドバイザー (3名) | 幼稚園長、保育所長経験者等 | | | | | | |
| 指導主事 (1名) | 小中学校課 | | | | | | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 幼児教育の質の向上 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;"><富山県における幼児教育の重点></p> <p style="text-align: center;">認知能力の育成に加えて、非認知能力の育成を目指す →身近な環境に主体的に関わり、遊びを楽しむ幼児を育てる</p> </div> <p>1 訪問研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 幼児教育施設訪問研修の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児教育施設の教職員の取組みについて指導助言 ② リーダーの育成と研修体制づくり <ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村推進リーダーの育成研修の実施 <p>2 指導方法等の検討、研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 幼児教育、小学校教育の円滑な接続を目指す取組み <ul style="list-style-type: none"> ア 幼小接続カリキュラムの改訂 イ 地区別幼小接続研修会の充実 ② 「幼児教育・小学校教育合同フォーラム」の開催 ③ 家庭教育と幼児教育の連携の検討 | <p>1-① 幼児教育スーパーバイザー・アドバイザーによる訪問研修 (2019年度：24園・所を訪問予定)・・・8月末現在、8回実施</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【訪問研修の成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○訪問研修が園の研修体制の充実につながる。 ○訪問研修により内部、外部から評価され、自信に結びつく。 ○目指す姿、育みたい姿の具体について考える機会となる。 △研修会の時間の確保や研修会参加者の増員 △研修会のもち方や進め方の浸透 </div> <p style="text-align: right;"><県内の幼児教育施設></p> <p>1-② 市町村推進リーダーの育成(2020年度～)⇒3年間で60名養成⇒3年に1度の訪問研修を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市町村推進リーダー育成に係る調整 <ul style="list-style-type: none"> ア 市町村担当者による協議(市町村推進リーダー候補の推薦、訪問研修における協力) イ 幼児教育団体との協議 <p>2-① 幼小の円滑な接続</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 幼小接続カリキュラムの改訂委員会の開催⇒「わくわく・きときと」カリキュラムの改訂 (委員：若山育代富大准教授 外11名) イ 地区別幼小接続研修会の充実(小学校教育関係者、幼児教育関係者) <ul style="list-style-type: none"> ・ 4地区ごとに、幼小の円滑な接続について合同研修 <p>2-② 「幼児教育・小学校教育合同フォーラム」の開催(10月21日 小杉文化ホール ラポール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講演「非認知能力の育成について」：白梅学園大学 無藤 隆教授 ・ パネルディスカッション <ul style="list-style-type: none"> コーディネーター：富山短期大学 宮田 伸朗学長 パネリスト：幼稚園、保育所、小学校等の代表 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○親が参加して、親学びノートの活用やグループ等で話し合うことにより ①子育ての悩みを共有 ②多様な考え方の気づき ○推進リーダーを配置 (79中学校区に各1名以上：県内計100名) </div> <p>2-③ 公民館での自然体験活動、親学び講座等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○親学び講座の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ H28～ 幼稚園、保育所等で実施⇒H30…約3,600人受講 <全体35,000人> ・ R元～ 0歳児～未入園所児保護者まで拡大 県内4カ所の子育て支援センターにて実施 | | | | | | |